（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社パールマネキン パールデポ関東流通センター

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 9	2 1	2 2	2 3	2 9	3 3	5 2	9 1	9 4	

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

・エコラッカーの使用比率の増大により、有害物質の排出を抑制。
労働安全衛生法にも準拠する作業環境を整えている。Eコマースの比率増大等のためマネキンの需要が減少傾向にあり、出荷量が減少しているので、VOCの排出量は、結果的に前年度より削減しているのが現状である。

・同系色調達による抑制。
下塗りと上塗りとが同系色の物を調達することで、塗膜を薄化し、使用量を削減。

・透ける塗料の作業工程に工夫を加える。
不透明な近似色下塗りで、塗装回数の削減を図り、塗料の使用量を抑える。

・洗浄用シンナーの廃棄を抑制。
色の薄い物から濃い物への生産順序にて、洗浄回数と量を削減する。

・返却商品への養生の徹底により、塗料を使用せずに出荷する割合を増やす。

・海外生産品については、極力現地での塗装を生かし、そのまま出荷する。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社パールマネキン パールデポ関東流通センター

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

・労働安全衛生法に対応し環境被害・健康被害の抑制に心がけています。

・業務遂行の上で、VOCの削減は困難な面もありますが、溶剤・塗料をPRTRや特化則に抵触しない組成のものへ転換を図っています。

・業界の特性～リース物であるため、商品回転が宿命～という事情により、作業性を考えると、より安全な水性塗料または、弱溶剤性塗料への移行は難しいのが、現状ではあります。

・また、環境保守に逆行するようではありますが、今年度は、塗装者の使いやすさや、価格の安さも勘案して、一部にPRTR対応でない溶剤も混ぜての塗装を行っています。ですが、今後とも、トルエン・キシレン・エチルベンゼンなど含有しない、いわゆるエコ塗料の使用比率を増大せせる事を核に、塗料自体の使用量も減らすべく様々な手法を取り入れながら、生産に従事し、環境負荷の軽減・健康負荷の軽減に尽力して参ります。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	京成自動車工業株式会社

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	2 1	2 2							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	京成自動車工業株式会社

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	東邦シートフレーム株式会社 八千代工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1		対策 2		対策 3		対策 4		対策 5		対策 6		対策 7		対策 8		対策 9		対策10	
2	1	2	2	3	3	9	1	5	6	5	4								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	東邦シートフレーム株式会社 八千代工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	丸善株式会社 京葉油槽所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3 1									

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策31：施設の密閉化等の施設からの蒸発防止策

（その四）

工場又は事業場の名称	丸善株式会社 京葉油槽所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２２年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	株式会社　竹中製作所 本社工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社　竹中製作所 本社工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	アズマプレコート株式会社 市川工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 2	2 3	9 1	9 2						

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	アズマプレコート株式会社 市川工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
(A)	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

生産量減少ならびに生産構成が変わってきているため、使用量とVOC排出量についても減少。

省エネと反比例の関係がありバランスをとるのに試行錯誤しています。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	神東塗料株式会社 千葉事業所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	1 2	1 3	2 1	2 3	9 1				

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

工場又は事業場の名称	神東塗料株式会社 千葉事業所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

VOC使用量に対する排出量の割合は変わっていないので、溶剤系塗料の生産量により、
VOC排出量が影響を受ける。
水系塗料の生産比率を高めることが、VOCの使用量削減につながるので、
会社として今後さらに水系塗料の比率を高めるよう、努力する。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 高浜油槽所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3 1	4 9								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策2：屋外ﾀﾝｸ貯蔵所の塗装色をｼﾙﾊﾞｰ色から白色に変更し呼吸ﾛｽ量を削減させる。

（その四）

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 高浜油槽所

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	2009 (平成21) 年度以前	2010 (平成22) 年度	2011 (平成23) 年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

（その三）

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 9	3 2	4 9	5 1	5 2	4 9	3 1	5 2	3 9	

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１：＊ﾍﾞﾝｾﾞﾝの使用を廃止した。

対策２：＊蒸留装置のｱﾌﾀｰｺﾝﾃﾞﾝｻｰにｺｰﾙﾄﾞﾄﾞﾗｯﾌﾟを2基増設しVOCを効率よく補足できるようにした

蒸留装置＃2300のｺｰﾙﾄﾞﾄﾗｯﾌﾟの位置を変更した。蒸留装置＃3400のｱﾌﾀｰｺﾝﾃﾞﾝｻｰを新設した

3系ﾁﾗｰ装置全体の負荷の見直し、負荷の分散を行った。

対策３：屋外ﾀﾝｸにﾍﾞｰﾊﾟｰﾘﾀｰﾝ配管を設置した。TK-622、TK-623ﾀﾝｸの遮温塗装を行った。

対策４：屋外ﾀﾝｸのﾌﾞﾘｰｻﾞｰﾊﾞﾙﾌﾞ及びｴｽﾃﾙ中和釜のﾍﾞﾝﾄから排出されるVOCを吸着除去するため、

遊休品のPSAを再稼働した。

対策５：ｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ製造時のｵﾌｶﾞｽ対策としてﾃﾞｨｯﾌﾟ式吸収塔を設置した。

対策６：屋外ﾀﾝｸにﾍﾞｰﾊﾟｰﾘﾀｰﾝ配管を設置した。

対策７：H25年度、廃液ﾄﾞﾗﾑに局所排気ﾀﾞｸﾄを設置した。

対策８：H25年度、各種ｽｸﾗﾊﾞｰ内の封水pHを11以上に管理した。

対策９：H26年度、PSA稼働ﾃｽﾄ実施（継続）、ｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰを一部設置した。

H27年度、PSA洗浄ﾃｽﾄ実施した。

H28年度、ｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰ3基設置(TK-15・604・611)

対策２：H27年度、夏場のﾀﾝｸ散水を実施している。

対策９:PSAの真空ポンプの更新、シリカゲル、活性炭の更新をした。

対策１：H29年度、トルエンの販売を中止した。

対策１：酢酸-n-ヘキシルの生産を中止した。

（その四）

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２３年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

＊基準年度に対して30%削減するという目標については、余裕をもって達成することができた。

22年度は生産量が増えた為、排出等の量が19,000ｋｇと計画値を達成することが出来なかった。

しかし、23年度は22年度と生産量はほぼ同じだったが、ﾍﾞｰﾊﾟｰﾘﾀｰﾝ配管付屋外ﾀﾝｸの使用頻度が増えた為、排出量を抑制することができた。

＊ﾍﾞｰﾊﾟｰﾘﾀｰﾝ配管付屋外ﾀﾝｸの使用率　　25年度：71%　　26年度：88%　　27年度：78%

＊使用量は計画年度とほぼ同等の量を取り扱ったが、取り扱い品目数で1.1倍、さらに揮発性の高いﾒﾀﾉｰﾙ、ｱｾﾄﾝに関しては1.5倍近く増えているので充填作業の増加及び排出量の増加が考えられる。

＊対策：①屋外ﾄﾞﾗﾑ充填施設に局所排気装置の設置②PSA装置の脱臭液の変更を計画している。

＊H26年度、引き続きPSA装置の脱臭液変更を計画、その他一部の屋外ﾀﾝｸにｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰを設置予定。

＊H26年度PSA装置ﾃｽﾄ実施、今季継続ﾃｽﾄ中。ｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰ設置中（約半数）。またH26年度は計画値の18,000kgを達成することができなかったのは、生産量が増加したためである。

＊H27年度、PSA洗浄ﾃｽﾄ実施し、効果を確認した。前年報告した計画値の算出に不備があり、修正。

＊H28年度、夏場のタンク散水を実施しております。ｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰを3基設置した。

＊H29年度、PSAの真空ポンプの更新、シリカゲル、活性炭の更新をした。

＊H30年度、ﾄﾙｴﾝの販売を中止した。

H30年度、排出等の量が15,000kgに低減している理由は、MEK関連の生産量が24%減少した為である。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社淀川製鋼所 市川工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2	5 6							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１
塗料、シンナーのフタ閉め、漏れ防止による溶剤管理の徹底
対策２
製品品質安定化による塗料使用量の低減実施
対策３
蓄熱式除去装置の安定運用

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社淀川製鋼所 市川工場

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成２１年度以前	平成２２年度	平成２４年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。